

SHIZUOKA PRIDE

「王国・静岡」の復活に向けて、今何が必要なのか。

静岡サッカーが強かったのはもう過去の話なのか。

全国のレベルが静岡に追いついただけ。

静岡は強豪校が多くいい選手がバラけてしまうなどの声はよく聞く。しかし本当にそれがサッカー王国低迷の原因なのだろうか。

そんな大きなテーマにやすらぎデンタルクリニック 鈴木真幸院長が切り込む。

今回は幼少期から多くのタイトルを獲得してきた

藤枝MYFCの齊藤俊秀監督に今の静岡県サッカーについて語ってもらった。

PROFILE 鈴木真幸 (Masaki Suzuki)

浜名高校から奥羽大学に進学。浜松医科大学で研修医終了後、日立制作所多賀総合病院へ出向。その後、浜松医科大学附属病院口腔外科勤務医。浜松医療学院全身解剖学講師(骨学、筋学)など歴任。Jリーグ選手の歯科検診、JFL、フットサルチーム、高校サッカー選手のかみ合わせなど治療を行う。

静岡県浜松市中区向宿1-21-16
やすらぎメディカルセンター3F

やすらぎデンタルクリニック 院長 鈴木真幸

藤枝MYFC 監督兼選手 齊藤俊秀

PROFILE 齊藤俊秀 (Toshihide Saito)

清水東高-早稲田大-清水エスバルス-湘南ベルマーレ(株)Jプレイヤーズ-(株)藤枝MYFC取締役
早大時代にユニバーシアード日本代表主将として世界大会優勝。1996年に清水エスバルスに加入。その年のナビスコカップにて優勝、ニューヒーロー賞受賞。またシーズン終了後には新人王も受賞。日本代表には1996年から1999年まで通算17試合に出場。1998 FIFAワールドカップの日本代表メンバー。

鈴木「私が学生の頃の静岡サッカーといえば、勝って当たり前と言われていた時代で、齊藤さんもまさにその時代で活躍されていました。当時の静岡サッカーをどのように感じていましたか？」
齊藤「僕が小さい頃は(サッカー王国静岡)というかたちで、それこそ少年から大人まで全部の世代が全国優勝してましたからね。清水で育って毎年全国大会へ出て優勝することは宿命づけられていたもので、今も静岡でサッカーをする以上、日本を目指さなければならぬという意識があります」
鈴木「私もさまざまな地域で暮らしていましたが、やっぱりサッカーは静岡という印象が強いんです。そんな中、齊藤さんから見て現在なかなか勝てない静岡県のサッカーをどう感じていますか？」
齊藤「やっぱり、全てのチームが静岡のプライドをもって、あえてそこはオンラインワンではなく、ナンバーワンを目指していくことが必要だと思います。それは一つ一つの大会で日本を目指していくことで、次の大会があるかいいやとかではなく、全部の大会で優勝するんだという気持ちが大仕事だと思います」

鈴木「そういった静岡のプライドというのはだんだん薄くなってきているようにも感じますが」
齊藤「そうですね。今は逆に勝てなくなってきた、それが当たり前のように甘んじているのではなく、もう一度思いっきりギアを入れ直して、本気で日本を目指すんだという気持ちがある静岡県全体が必要だと思います。やっぱり今の自分があるのも、子どもの頃の経験のおかげで、出た大会全部優勝するんだという欲求があると、結果につながるし、たとえ違う結果になったときも居心地がわるくて次に繋がってくるんです。それは本

チームワークなんです。技術はもちろんですけど、スタッフの対応が悪かったらあの歯医者者だめだつてなっちゃうので。スタッフ全員とのコミュニケーションも大事です。チームとして同じ方向を向けることが良い歯医者につながっていると思います」

齊藤「そうですね。個々のモチベーションも様々で、絶対勝つてやろうと思う選手もいれば、今日の相手はどうかなと思う選手もいる中で、一つの大きな丸がギョッと小さな丸になっていくと、本当に戦術や技術を超えたものが出せると思います。なので、そういった総力をチームから地域、県で一つにできれば、また静岡サッカーも強くなっていると考えています」

鈴木「ほんとにその通りですね。そういった地域を巻き込んでという話の中で、藤枝MYFCがJFLからJリーグ入りを目指し頑張っている姿は本当にうれしく思います。先日試合では500試合を達成されましたが、特に食事の部分で気を付けていることはありますか？」
齊藤「食事に関しては沢山食べることに、出したいだいたいのものを完食すること。それは小学校や少年団の頃からの教えで、完食すること、出してくださった方への感謝の気持ちを伝えられま

すし、食べれば食べるほど自分の糧になるわけですから、いろいろなるものを好き嫌いなく食べれる習慣は小さい頃からありました」
鈴木「それは今の子どもたちには特に大事なことです」
齊藤「そうですね。最近の子たちはあまり食べる印象がないので、もう食べるの辞めなよっていうくらい食べてもいんじゃないかと思えます」

鈴木「それは試合前とかでも同じですか？よく油物を控えたり、甘いものを控えたりというイメージがありますが」

気で一番上を目指したからで意識基準が高くなればなるほど努力も変わるし、行動も変わるし、そういう自信がプロにつながる、代表につながる。意識を常に高く持つことがすごく重要だと思います」

鈴木「それはどの世代にも言えることですね。年齢を重ねていくと、自分なんかはできないという言い訳をどんどん探すことが増えてきて、そればかりを追求するようになってしまいがちです。その意識を持ち続けるというのは大変で、途中諦めてしまう人も多いと思いますがどうやって保ち続けることができるんですか？」

齊藤「とは言っても、常にスイッチをONしているわけにもいかないし、休む時は休むメリハリをつけてます。良いときも悪いときもあると思いき、成長過程においても個人差があり長い人生良いときはばかりではなく、波があって普通です。その一時的感情でもういいやってならないで、いい意味で順風満帆は逆に不健康だと思ってるぐらいのスタンスで力を蓄えればいいと思います。それを指導者であったり、仲間であったり、家族であったり、いろいろいる人たちが支えてあげることが大事だと思います」

鈴木「そういう時期に支えてくれる人たちの存在は大きいですね。サッカーはチームワークもすごく重要だと思います。自分も歯医者をやっているところが一番いい歯医者かとなるとやっぱり



齊藤「とくに変わらませぬ。マイケルジョーダンの影響もあってですが、彼は夜の試合があっても午前筋トレして、昼ステーキを食べるんです。それは目先の試合だけではなく、その先の試合のために試合で体を作っていたんです」

鈴木「そうした意識が、齊藤さんも500試合につながっているんですね。これから藤枝MYFCとしての役割はどうのように考えていますか？」
齊藤「やっぱり、藤枝はサッカー王国静岡の元祖です。だからこそ下手なことはできないので、とにかくつべん目指して行かなければ認められないと思います。その中で自分たちが地域に還元できることをやっていきたいです」

鈴木「まさに齊藤さんがおっしゃるように市民球団のように、地域を代表して藤枝自体も盛り上がってほしいですね」

齊藤「もちろんです。上を目指しますが、いい意味で人あたりのいいチームといいますが、変に勝負にこだわらずに近寄りやすい存在になるのではなく、関ジャニみたいな気のいい兄ちゃんみたいな感じで、自分たちからこの地域に近づいてくれる、そういう人間性を持ったチームになればいいと思います」

鈴木「日本を目指してこれからも頑張ってください。今日はありがとうございました」
齊藤「こちらこそありがとうございました」